

第3章. 「幻の安土城」見える化”の基本理念

1. 「安土」と「安土城」の価値とその見える化について

「安土」と「安土城」の代表的な3つの価値

①歴史的な価値

- 安土城は、信長が戦国大名から統一政権を目指した天下人となる過程で築いた城で、戦国大名の領国支配拠点ではなく、天下を支配するための居城として築かれたものです。その建築は中世の戦闘を目的とした城づくりから、天下を統一していくための新しい時代の城として改革されていて、日本の城郭史上初めて登場した城として、中世から近世へと移り変わる新しい時代の幕開けを象徴するわが国の歴史上大変重要な価値のある文化財です。
- 記録では、信長は天下人としての地位を確立するため、築城時から天皇を安土城に迎える「安土行幸」を計画していました。山頂に天皇を迎える御殿を本丸に建設するなど、安土城は信長の威光を天下に知らしめるための舞台としての性格を備えた城でもありました。

- ・時代の寵児、天下人信長という人物像
- ・天下人の拠点としての「安土」という場所の価値
- ・織田信長が天下人を目指し、国を超え天下を支配する天下布武の拠点、政治の拠点。
- ・安土行幸の舞台としての安土城

②城郭としての価値

- 天下人の居城としてふさわしい城とするため、京や奈良より当代最高の職人を動員し、絵画や工芸など当時の伝統文化・技術の粋を集めて造られていました。また、高石垣、高層で複雑な建物群、金箔瓦を多用した瓦葺き建物の3つの要素を同時に用いた城づくりは、安土城が初めてのころみで天下無双の大城郭でした。
- その中心山頂に、信長は地下一階、地上六階という日本史上初めてとなる高層城郭建築である「天主」という建造物を創作しましたが、これは、後の近世城郭の原形・原点となるものでした。
- 記録によると、天主の外観はいずれも白壁や、赤・黒漆で塗りこめられ、各階にはたくさんの部屋があり、その部屋のひとつひとつが金銀飾り金具や金碧の障壁画、様々な画題の襖絵で飾り立てられ、屋根瓦には金箔瓦や鯨瓦が使用されるなど、当時において唯一無二のものとして荘厳華麗を極めていました。
- 「ANZUCHIYAMA=安土山」の名は、国内で布教を行っていたポルトガル宣教師らによって遠くヨーロッパにまで伝えられ広く知られていました。また、安土城と城下町を正確に描いた「安土山図屏風」がローマ教皇に献上され、模写されたことで、その姿は広くヨーロッパにも知られることになりました。

- ・安土山全体に城の遺構が広がる、大規模な全体構造
- ・高石垣の上にそびえたつ瓦葺き地下一階地上六階の高層建築としての天主
- ・様々な当時の技術の粋を集めた建築
- ・遠くヨーロッパにもその名前と姿が伝わった城

③都市としての価値

- 安土山の麓には「安土城下町」が建設され、そこでは楽市楽座や徳政・諸役免除などの経済振興政策が実施されました。また、家臣団の集住が進められるなど、後に続く近世都市の先駆けとして活気あふれる城下が営まれました。
- 琵琶湖の水運を利用するため湊を城下町に取り込み、東西を結ぶ主要街道である東山道から往来する人々を安土に立ち寄らせるなど、水陸両方の交通の要衝として城下町が建設されました。
- 信長は家臣に命じて宣教師に屋敷を整備させました。三階建てで城下では唯一瓦を使用することが許されるなど、宣教師を優遇しました。屋敷は二階までが住居で、三階がキリスト教の神学校であるセミナリヨとして使用されていました。また、これらとは別に修練所や教会建設が進められていました。

- ・琵琶湖の水運(琵琶湖)と陸上交通(下街道)を利用した町づくり
- ・国の中心となる楽市楽座など最先端の経済政策が導入された城下町
- ・武士と町人によって形作られる近世都市の原型
- ・キリスト教を保護し、外国文化にも寛容な町

デジタルによる安土城及び安土城下町の見える化では、これらの価値や魅力を、より多くの人々に伝えていくことで、歴史や文化財に対する理解の共有を図り、将来にわたる保存継承へとつなげていくことが求められます。

そのことを踏まえ、「幻の安土城」の見える化の定義を定めます。

「幻の安土城」の見える化の定義

これまで十分に伝えきれてこなかった安土城及び安土城下町の価値や魅力等を、わかりやすく伝えるため、映像や言語等による「可視化」(visualization)を行い、その提供を通じて、誰もが簡単に利用でき楽しみながら、歴史や文化財に対する理解と価値の共有へと「波及」(influencing)させていく。

2. 基本理念

安土城及び安土城下町の見える化の方法・手段として、VR、AR等といった最先端のデジタル技術を活用し、現時点で判明している知見等に基づいた安土城の実像に迫ることで、臨場感があふれる体験を提供することができます。

この「可視化」「波及」の効果をより高め安土城の魅力を世界に発信し、その価値を活用していくことができます。これらを踏まえ“「幻の安土城」見える化”の基本理念及びその効果を以下に定めます。

< “「幻の安土城」見える化”の基本理念 >

現地ならではの、本物が持つ迫力と魅力を“見える化”を通してみんなで理解し、共有の輪を広げ安土城の価値を未来へと継承していく。

何を (内容)

・これまでの様々な資料や最新の調査研究から導き出された、安土城の①歴史的な価値、②城郭としての価値、③都市としての価値をあますことなく提供し、その実像に迫る。

誰に (対象)

・次世代を担う子どもたちをはじめ、地域住民や、現地を訪れる安土城に強い関心を持つ歴史ファン、国内外の観光客など、幅広い層の人々の興味を喚起する情報・体験を提供する。

どこで (場所)

・現地である特別史跡安土城跡及び城下町、関連施設。

どの ように (手法)

・高精細3DCGによりデジタル復元した安土城の建物群や城下町の町並み等について、VR、AR等の最先端のデジタル技術を用いた映像や光、音、言語等の手法・演出による臨場感あふれる感性を刺激する体験を提供する。
・利用者の属性や場面ごとの手法を展開し、安土城に触れる機会を広げ、より興味を抱く層に対してはさらに深い体験へとつなげていく、シームレスな体験環境を提供する。

< “「幻の安土城」見える化”に期待される効果 >

- ・安土城及び城下町の価値を高め、その魅力をわかりやすく伝えていくことで地域及び滋賀のブランド力向上を図る。
- ・来訪者に「ここでしか味わえない／ここに来たから楽しめた」という特別感のある感動体験を通じた満足度の向上を図り、滞在性・回遊性を高めて地域経済の活性化に貢献する。
- ・先端技術による「歴史文化にふれる、感じる楽しみ」を、安土から近隣市、さらに県全域へと波及させ、県下各地の歴史文化を活かしたまちづくりや教育、広域周遊観光へと展開していく。
- ・安土城及び安土城下町のデジタル復元の成果や過程等を、様々な媒体や手段を通じて国内外に発信していくことで、幅広い層からの関心と安土築城450年に向けた機運情勢につなげていく。
- ・行政、地域等の主体がそれぞれの立場、役割から見える化に関わることで、地域の誇りとして文化財を継承していく土壌づくりに寄与していく。

3. 基本的方向

“「幻の安土城」見える化”の基本理念を実現し、その効果を発揮すべく、事業の基本的方向を以下と定めます。

① ゾーニングによる「安土」の歴史文化の掘り起こしと物語化

安土城及び安土城下町それぞれが持つ価値や魅力を、調査研究成果や現存する歴史文化資産等に基づく地域的な特性（ゾーニング）により、共通の背景や文脈を持つ“まとまり”として掘り起こし、利用者等にとってわかりやすく楽しめる物語へと展開します。

- ・安土城の調査研究成果を踏まえて、対象範囲内について、地域の構造や歴史的背景、資産の分布状況等に基づき、城の中核をなす天主及び主郭部を中心に、その他城郭部、安土城下町及びその周辺等の複数の地域区分（ゾーニング）を設定します。
- ・ゾーンごとに、共通の歴史的背景や文脈を持つまとまりとして価値や魅力の特性を掘り起こし、その特性に応じた「テーマ」のもと、伝えるべき情報、価値を設定し物語化を行います。

② デジタル復元による信長時代の「安土」を体感する空間の再現

かつて栄華を誇った天主をはじめとする城郭建物や城下町の町並み、そこで営まれたエピソードといった、信長時代の「安土」をデジタル技術により現地に復元することで、誰もが本物の資産が持つ魅力に触れ、楽しみ、学ぶことができる体感空間を整備します。

- ・基盤となる地形等の3DCGデータを作成するとともに、ゾーニングごとの「テーマ」に即して、見える化の基本的な内容（コンテンツ）及びその手法を設定します。
- ・安土城及び城下町の研究成果や発掘調査成果等を、その特性に応じたデジタル技術を駆使してわかりやすく、リアルに伝えていきます。
- ・安土城の象徴である天主について、最新の調査研究に基づく複数案の高精細3DCGでのデジタル復元及び公開を行い、天主の歴史的価値や復元研究の到達点等を多くの利用者等に伝えます。
- ・復元した天主及び城郭建物、城下町の町並み等について、当時の人々の視点から追体験できる視点場（『見える化スポット』）を各ゾーンに設置し、スポットに適したエピソードを含むコンテンツ提供を行うことで、物語化した価値や魅力に触れ理解できる場を整備します。
- ・拠点施設では、高精細で大規模なシアターやホログラム展示等といった屋外では提供が困難な、より深く安土の価値や魅力を堪能できる体験を提供します。

③ 見える化の効果を地域全体に波及させる基盤づくり

デジタル復元された安土城及び城下町等の『見える化スポット』を巡り、拠点施設等をつなぐ周遊ルートを構築することで、安土の地に広がる重層的かつ多彩な価値や魅力を堪能する多くの観光客を誘い、地域全体の振興につなげます。

- ・安土城及び城下町の多様な価値に触れ、その魅力をより深く楽しむため、ゾーン各地の「見える化スポット」や拠点施設等を巡り、地域を回遊する周遊ルートを設定します。
- ・周遊ルート上の拠点施設は、利用者の迎え入れや現地での案内など、施設の特性や立地状況等に応じた役割を担い、利用者の安土城に対する理解と興味を促進する仕掛けとして機能を図ります。
- ・デジタル復元された建造物及びその紹介コンテンツ等の多言語化を行い、訪日外国人も楽しめるよう整備し、安土城に対する幅広い層の関心と認知度を向上して安土築城450年に向けた機運情

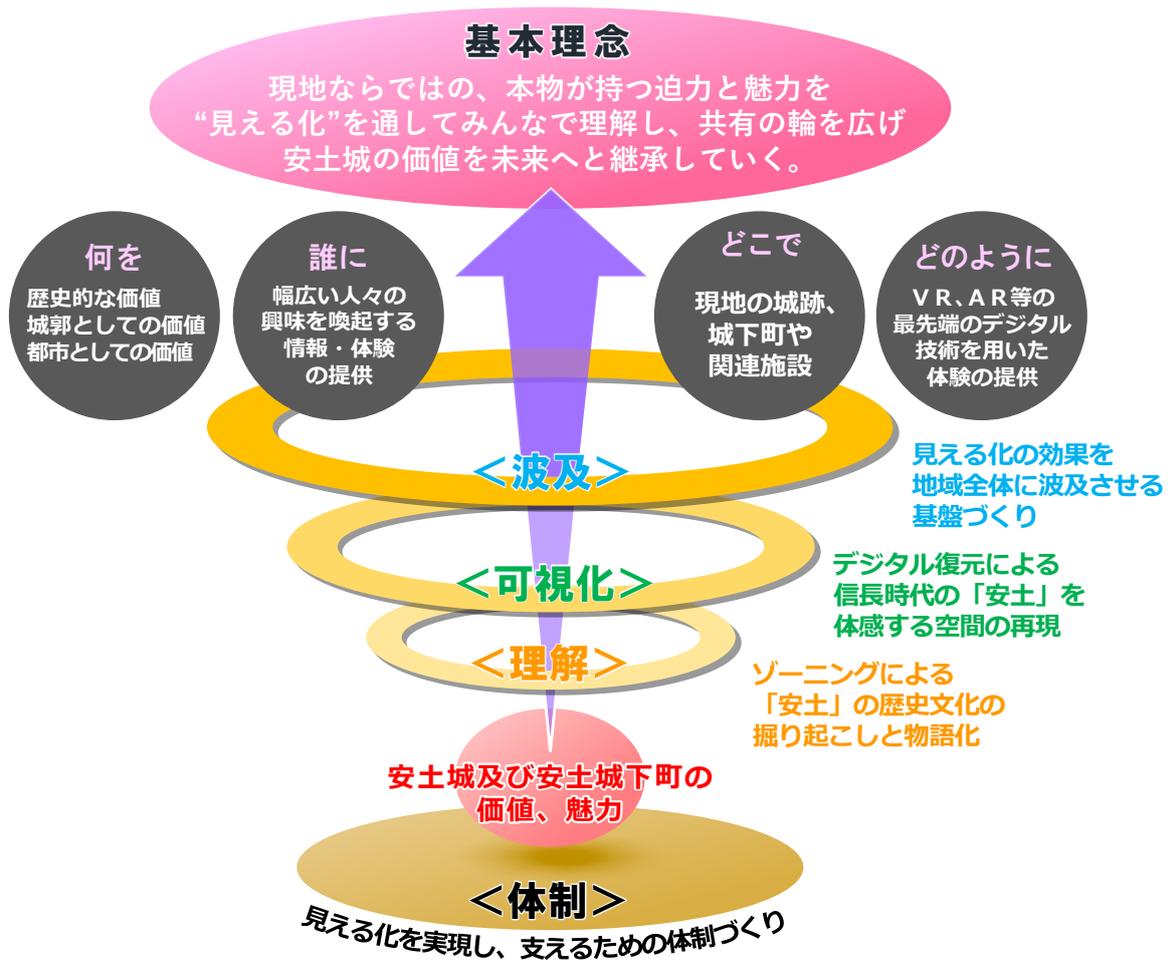
勢につなげていきます。

④ 見える化を実現し、支えるための連携・協力

見える化の実現に向けて、行政（滋賀県、近隣市）及び専門家、関係団体、地域住民等が、それぞれの役割を担い、協力、連携を図ります。

- ・安土地域の各種まちづくりや観光振興策等に取り組む主体との連携の強化を図り、デジタル復元した安土城及び城下町データの相互利用を図るなど、相乗効果が期待される取り組みを推進します。

“「幻の安土城」見える化” 基本理念及び基本的方向 概念図



第4章 全体計画

1. ゾーニング計画

1-1. ゾーニングの考え方及び設定

見える化の基本理念を踏まえ、基本的方向に沿った取り組みを重点的に進めていく範囲として、計画対象地のゾーニング(区域区分)を行い、ゾーンに応じた効果的な見える化の推進の方向性を定めます。

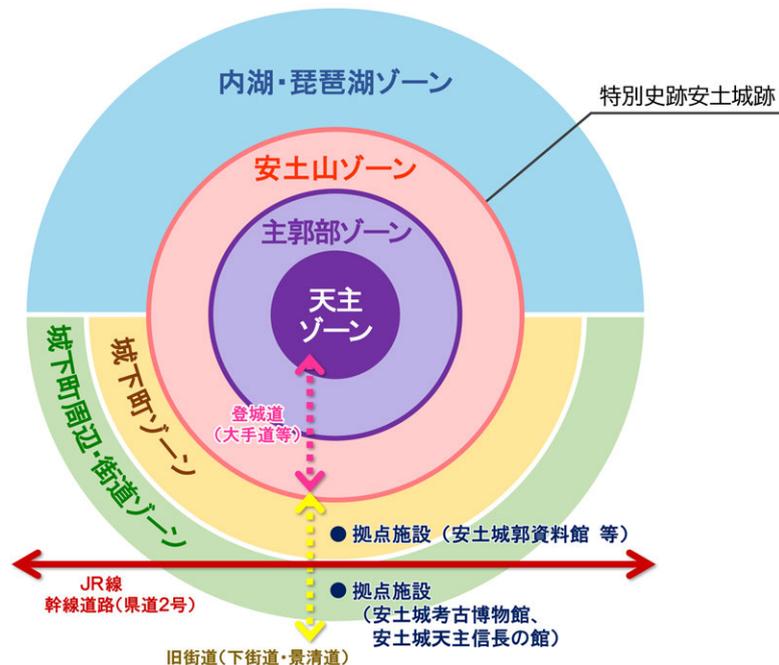
ゾーニングは、まず特別史跡指定地内について、安土城の最も重要かつシンボリックな建造物である天主跡を最重要ゾーン「天主ゾーン」と位置づけます。さらに天主を基点に、その周囲に連続的に広がる「主郭部ゾーン」・「安土山ゾーン」の各ゾーンを位置づけます。これら特別史跡指定地内は、文化財として遺構等の保存、現状維持を最優先としつつ見える化を含む活用の取り組みを進めていくことが求められます。

さらに、安土城の南西に位置する安土城下町(想定)の範囲を「城下町ゾーン」とするとともに、安土城及び城下町を取り囲む南側を「城下町周辺・街道ゾーン」、北側に広がる内湖・琵琶湖からの眺望として「内湖・琵琶湖ゾーン」を位置づけます。

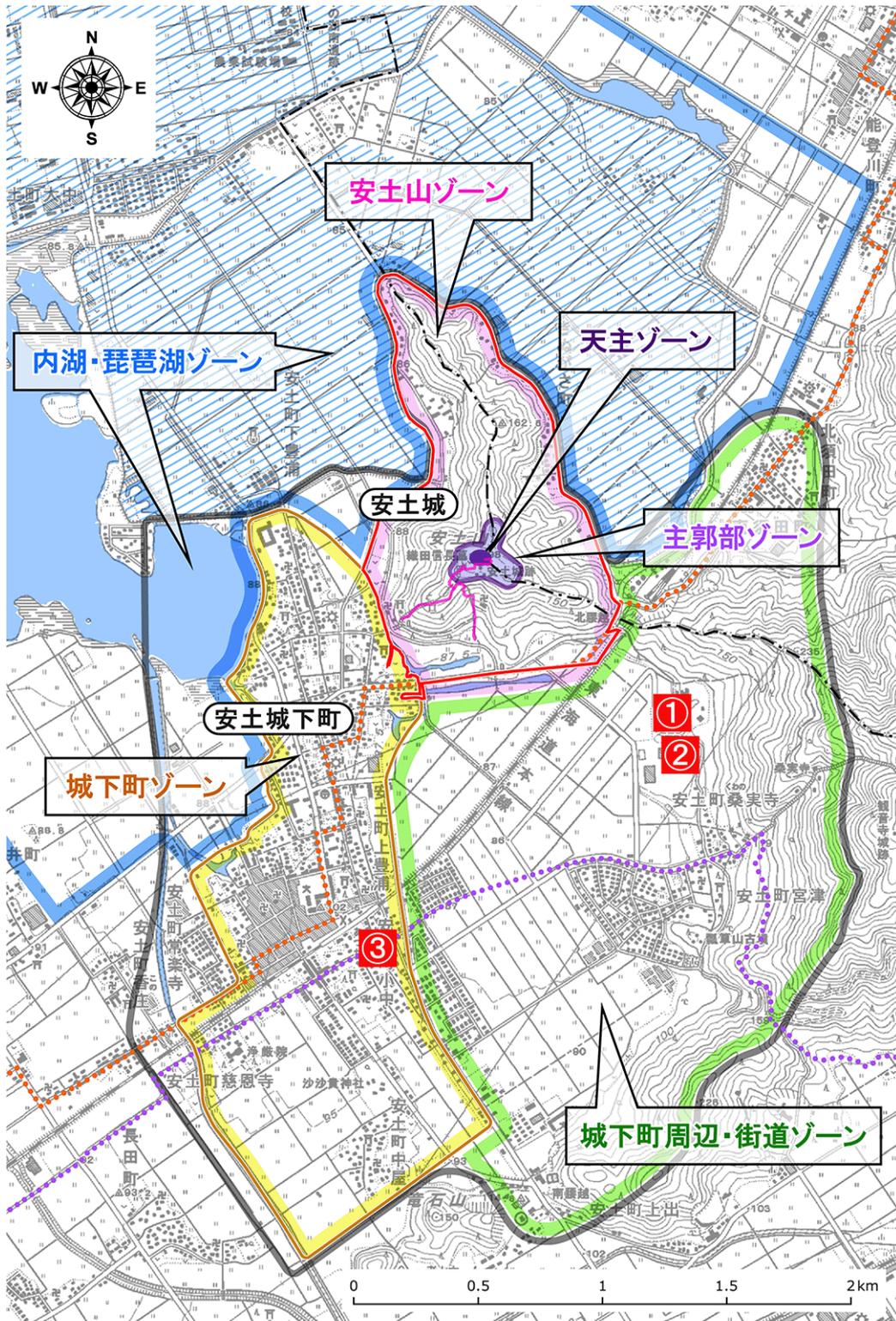
これらゾーンは、旧街道(下街道・景清道)及び登城道等を通じてつながるとともに、JR線及び幹線道路(県道2号)等により対象地外とつながります。

<p>天主ゾーン …特別史跡安土城跡のうち天主跡の区域。</p>	<p>城下町ゾーン …安土山南西側の城下町跡(推定)の範囲。</p>
<p>主郭部ゾーン …特別史跡安土城跡のうち天主跡を除く主郭部(伝本丸跡、伝二ノ丸跡、伝三ノ丸跡、伝黒金門跡等)の区域。</p>	<p>城下町周辺・街道ゾーン …城下町ゾーン周辺の農地(JR線以北・以南)及び街道(下街道・景清道)沿道の範囲。安土城考古博物館及び周辺。</p>
<p>安土山ゾーン …特別史跡安土城跡のうち安土城天主及び主郭部ゾーンを除く区域。また特別史跡外の一部(外堀周辺)を含む。</p>	<p>内湖・琵琶湖ゾーン …安土山北側の西の湖周辺及び旧内湖(安土内湖・伊庭内湖)の範囲。加えて遠景となる旧内湖(大中の湖)及び琵琶湖を含む。</p>

ゾーニング概念図



ゾーニング計画



	基本計画 対象範囲		水域		下街道 (朝鮮人街道)
	主な拠点施設		旧内湖 (干拓地)		景清道
①	安土城考古博物館		特別史跡指定地		主な登城道 (大手道、百々橋口道)
②	安土城天主信長の館		城下町の範囲 (推定)		
③	安土城郭資料館				

1-2. ゾーンごとの特性

(1) 天主ゾーン

このゾーンは、安土山の山頂最高地に立地する天主跡（天主台）となります。城の中心的シンボルである天主は現在建物が失われていますが、記録によると約35mの高さがあったとされ、一階面積では姫路城（国宝）と同規模を誇ることが判っています。天下布武の象徴、都市のランドマークとして、かつては城下町や街道、琵琶湖の対岸からもよく見えたと考えられています。

天主跡	<p>天主台は変形の七角形。地下1階となる穴蔵内部には築城時の床面・礎石等を現状で見ることができます。</p> <p>建物を支えた礎石は、焼失時の火災で焼けており、天主倒壊時の重荷で傾いていますが、穴蔵構造は今も焼失時のまま完全に保存されています。穴蔵の広さは、約20m四方で大勢の見学者が一度に滞留できるほどの広さはありません。</p> <p>天主が現地でデジタル復元された場合、その外観を間近で観察できる地点は天主台南側の伝本丸跡あたりからに限られ、主郭部の中で最も低い位置から見上げることになります。</p> <p>現状では天主台自体が樹木に覆われていることから、全体像がわかりにくい状況が想定されます。</p>	 <p>天主跡</p>  <p>天主台南面(伝本丸跡より)</p>  <p>天主跡から琵琶湖方面を望む</p>
------------	---	--

(2) 主郭部ゾーン

このゾーンは、信長の居城全体となる安土城の中心部となる範囲です。天主を中心に、山頂部を高石垣で囲み、黒鉄門と搦手虎口を入口とし、その内部に伝本丸跡及び伝二ノ丸跡、伝三ノ丸跡等の複雑な建物群跡で構成されています。

<p>伝黒金門跡</p>	<p>主郭部の西端に位置する重要な入り口(枳形虎口)として、石畳には城内でも最も大きな石が用いられており、訪れるものに圧迫感を与えます。現状は、多聞櫓の基礎部となる石畳が残されているのみです。</p>	
<p>伝本丸跡</p>	<p>主郭部の建物の中で最も低い位置にあり、礎石がそのままの形で残されています。</p> <p>本丸御殿は、行幸御殿とも考えられていますが、現状で当時の姿をイメージすることはできません。</p>	
<p>伝二ノ丸跡</p>	<p>天主の西側に位置する郭で、二の丸と呼ばれていますが、当時どのような建物が建っていたか、使われていたかはわかっていません。現在は、江戸時代に建立された信長廟があり、禁足地となっています。信長にあやかる人々の聖地となっており、参詣する人々が多数訪れています。</p> <p>天主台の西側、伝二ノ丸跡の南東隅には一段低い高さで伝二ノ丸東溜りと称する方形の空間があります。発掘調査で天主炎上の証拠を示す遺構や遺物が発見され注目されました。</p>	 <p style="text-align: center;">伝二ノ丸跡(織田信長廟)</p>  <p style="text-align: center;">伝二ノ丸東溜り</p>
<p>その他未公開部分</p>	<p>その他、未公開地区・未整備地区として、伝三ノ丸跡、主郭部北側の郭群(伝台所跡、伝米蔵跡等)、伝本丸跡に続く虎口(伝本丸東虎口、南虎口等)等があります。</p>	 <p style="text-align: center;">未公開の区域(主郭部北側)</p>

(3) 安土山ゾーン

このゾーンは、特別史跡安土城跡指定地域及び外堀のうち天主・主郭部ゾーンを除く範囲です。

南面中央部に存在する伝大手道を中心に左右に広がる屋敷跡と郭群が斜面に累々と築かれています。大手道は行幸道を兼ねている可能性があり、天下人の道とも考えられるものです。また西側には、城下町と安土山を繋ぐ百々橋口があり、山頂には信長が建立した惣見寺跡(二王門・三重塔)が存在するほか、西の湖や八幡山城を望む眺望も楽しめます。

また、南正面には、内堀と外堀を見ることができ、安土城の表玄関、顔ともいえる場所となっています。

<p>下街道及び外堀周辺</p>	<p>かつての下街道である県道大津能登川長浜線の南にある五反田川が外堀です。現在は特別史跡の指定地外ですが、今後追加指定される予定です。外堀より外は沼地であったとされています。</p> <p>下街道は、信長が整備した京への道で、両側には松が植えられ、常に掃き清められていた道であったといわれていますが、かつての趣はありません。</p>	 <p>外堀跡から安土山を望む</p>
<p>内堀周辺</p>	<p>下街道の北側、大手口までの範囲が内堀周辺地となります。現状では多目的広場や農地が広がっていますが、当時は、大手口の前庭となる部分で、皇居でいえば皇居前広場にあたる部分です。現状では、未整備のため当時の姿を思い起こさせるものはありません。</p>	 <p>内堀周辺</p>
<p>大手口周辺</p>	<p>大手口の石塁から中が、安土城内となります。正面玄関の出で立ちとしては、門跡を中心に、ほぼ左右対称となった石塁や櫓台で構成されており、発掘調査成果をもとに基礎部を復元しています。安土城跡の来訪者が最初に訪れる場所としてその壮大さを体感できる空間となっていますが、建造物がある当時の姿を知ることは出来ません。</p>	 <p>大手口周辺</p>
<p>登城道 (伝大手道、 百々橋口 道)</p>	<p>伝大手道は、大手門推定地から山頂部に築かれた天主・主郭部に至る城内では最も重要な登城道です。</p> <p>発掘調査に基づく環境整備で復元された伝大手道は、大手門推定地から山腹まで約180mにわたり直線が続く形状となっており、道幅約6mと広く、道の東西に書院造の主殿を中心とした屋敷跡が連なります。直線の通路と両側に広がる屋敷群、延長上にそびえる天主の堂々とした姿は、当時の人々を圧倒したと考えられますが、現状は石段、石垣と山腹の樹林地が広がるのみです。</p> <p>百々橋口道は、安土山と城下町を繋ぐ道で、名称は道の登り口に架かる橋(百々橋)に由来します。家臣たちが登城する城内道と考えられます。現状は入口部分が閉鎖され、下山道の一部として利用されています。</p>	 <p>伝大手道</p>  <p>百々橋及び百々橋口道</p>

<p>屋敷群跡</p>	<p>大手道の両側には、伝羽柴秀吉邸跡や伝前田利家邸跡、伝徳川家康邸跡、伝武井夕庵邸跡、伝織田信忠邸跡と伝えられる屋敷群跡を見ることができます。急斜面を造成して造られた屋敷地は、数段の郭に分かれた複雑な構成となっています。</p> <p>現状は、発掘調査によって判明した建物構成や遺物に基づく環境整備が行われ、礎石の露出展示及び一部虎口の復元が行われています。建物についての情報として、解説板に復元平面図（推定）が記されていますが、現地で実感することはできません。</p>	 <p>伝羽柴秀吉邸跡</p>  <p>伝前田利家邸跡虎口</p>
<p>摠見寺跡</p>	<p>摠見寺は、信長により安土城内に創建された寺院で、天主と城下町を結ぶ登城道（百々橋口道）の途中にあるため、城内を訪れる人々の多くが境内を通り信長のところへ参上したと考えられます。本能寺の変後の天主炎上の際には類焼を免れることができましたが、江戸時代末期に伽藍の中枢部を消失しました。</p> <p>現状は、本堂跡等は礎石が残るのみですが、三重塔、仁王門が現存するとともに、解説板には『近江名所図会』に描かれた摠見寺が記載されるなど、往時の姿を偲ぶことができます。また、安土山東麓の超光寺（東近江市）には、かつての摠見寺の裏門を移築した山門が所在します。</p>	 <p>摠見寺跡（本堂跡）</p>  <p>摠見寺三重塔</p>  <p>摠見寺跡から西の湖方面を望む</p>
<p>未公開部分</p>	<p>ゾーンの大部分が未調査・未整備、非公開となっています。</p> <p>令和2年（2020）に実施した航空レーザー測量では、安土山全体に様々な城郭施設が遺されていることが判明しており、安土山一帯に広がる城の全体構造を知ることにも大切な情報の一つです。</p>	 <p>安土城跡 地形図</p>

(4) 城下町ゾーン

このゾーンは、城下町跡（推定）の範囲（概ね活津彦根神社（近江八幡市安土町下豊浦）から南腰越峠（安土町小中）に至る一帯）に加えて、特別史跡安土城跡南側の農地（JR線北側）の範囲として設定します。特に城下町は、現在の市街地と重なり、道通りや街区、地名が現代でもよく残っており、信長と関わりの深い場所や伝承も各所に残っています。また、拠点施設としてJR安土駅前に安土城郭資料館及び安土駅観光案内所が所在しています。

<p>常楽寺湊跡</p>	<p>常楽寺湊は、かつて琵琶湖に面しており、室町時代には佐々木荘の港でしたが、安土城築城に伴い、安土の物資輸送・交易・軍事の中心として琵琶湖の各港をつなぐ航路の拠点とされました。現状は常浜水辺公園として整備されており、公園からは安土山が見えます。また公園に隣接して常楽寺城（木村館）跡推定地があります。</p>	 <p>常楽寺湊跡</p>
<p>セミナリヨ跡</p>	<p>セミナリヨは、イタリア人宣教師オルガンチーノが天正9年(1581)に創建した日本最初のキリシタン神学校です。信長より下付された土地に建てられましたが、本能寺の変の後、焼失しました。現在、伝承により字「ダイウス」の地に史跡公園として整備されていますが、字「主の御座」とする説もあります。いずれにしても、遺構は見つかっておらず、正確な場所や形は不明です。</p>	 <p>セミナリヨ跡史跡公園</p>
<p>城下町の町並み</p>	<p>城下町跡（推定）は現状市街地であり、かつての面影は、道筋や街区や地名、下街道沿道の寺社の一部に残るのみです。絵図に残された「惣構どて」についてもその痕跡は全く残されていません。また、安土宗論の場となった浄厳院をはじめとして、信長にまつわる伝承が今も町内各所に遺されていますが、街歩きができるほどルート整備は進んでいません。</p>	 <p>城下町(下街道沿道)の町並み</p>
<p>城下からの安土城の眺望</p>	<p>安土山麓の城下町は住宅等が密集し、安土城（安土山）を望める場所はセミナリヨ跡など一部に限られます。JR線以南の浄厳院跡からも、遠方となりますが城跡全体を望むことができます。</p>	 <p>安土城の眺望(セミナリヨ跡より)</p>

(5) 城下町周辺・街道ゾーン

このゾーンは、城下町ゾーン東側の農地（JR線以北・以南）及び安土城考古博物館周辺の範囲となります。かつては、城下町の東側、安土城の正面に広がる湿地帯で、街道（下街道・景清道）が通っていました。往時には遠く安土城天主の姿を眺めることができた視点場であったと考えられます。現在は、大部分が農地となっており、JRの車窓からも安土城を望むことができるビューポイントとなっています。また、拠点施設である安土城考古博物館及び安土城天主信長の館も所在しています。

<p>下街道 (朝鮮人 街道)</p>	<p>信長が安土城下町建設にあたり、当時の主要道であった東山道(のちの中山道)から城下町へ人々を立ち寄らせるために整備した道で、概ねルートはJR安土駅前から城下町の中を抜けて安土城大手口に至ります。城下町内では、ルートは残っていますが、一部道標があるのみで、往時の街道を思い起こさせる遺構はありません。</p>	 <p>下街道(朝鮮人街道)の標識</p>
<p>景清道</p>	<p>平安末期の武将伊藤景清が尾張より京都へ行く際に通ったことに由来します。概ねルートは、JR線以南の桑実寺から小中の集落を経て浄厳院の門前に至るものです。 沿道に文化財等が少なく、一部を除きルートは残っていますが、往時の姿をとどめていません。</p>	 <p>景清道</p>
<p>安土城の 眺望</p>	<p>JR線以北の安土山南側の農地からは、城跡の全体がよく視認できるほか、JR線以南の農地(景清道)からも城全体が視認できます。当時も、様々な位置から安土城が遠望できたものと思われます。</p>	



安土城の眺望(安土山南側の農地より)



安土城の眺望(JR線南側の農地(景清道周辺)より)



安土城の眺望(安土城考古博物館前より)



安土城の眺望(安土山東麓(下街道周辺)より)

(6) 内湖・琵琶湖ゾーン

このゾーンは、安土城下町以西の西の湖周辺及び安土山北側の旧内湖（安土内湖・伊庭内湖）から琵琶湖に至る広域の範囲となります。

かつて琵琶湖に突出するように築かれた安土城ですが、戦後、その周囲が干拓され、現在では農地が広がっています。活用にあたっては、住民の日常生活や農業との調整等が求められます。往時は、琵琶湖の対岸からも、湖上を長浜から坂本へと行きかう船の上からも見えたであろう安土城の姿を今は見ることはできません。

<p>天主跡からの眺望</p>	<p>かつては天主から、琵琶湖と対岸が一望できたはずですが、現在は琵琶湖が遥か彼方であり、眼下には農地が広がるのみです。35m あった天主の高さを実感することもできません。</p>	
<p>惣見寺跡からの眺望</p>	<p>惣見寺跡（本堂跡）は、公開されている安土城跡の区間のうち最も眺望が開けている場所です。西の湖と眼下に広がる市街地（かつての城下町跡）を望むことができます。</p>	
<p>安土城の眺望（内湖）</p>	<p>西の湖周辺のよしきりの池の展望スペースからは安土山全体がよく視認できます。干拓地内に位置する弁天島からも安土山がよく視認でき、かつて内湖に囲まれた湖城としての安土城の様相をうかがうことができます。</p>	
<p>安土城の眺望(西の湖周辺(よしきりの池)より)</p>	<p>安土城の眺望(旧内湖(弁天島)より)</p>	

2. ゾーンごとの見える化に関する計画

2-1. ゾーンに応じた見える化に関する基本的考え方

前項に示す各ゾーンの現況及び課題を踏まえ、その特性に基づく見える化の実現と、その効果を最大限に発揮すべく、ゾーンに応じた見える化に関する基本的考え方を以下に整理します。

① ゾーン共通の基盤となる地形データの作成

- ・見える化を図る建造物や眺望、エピソード等のコンテンツを支える基盤となる地形情報について、琵琶湖沿岸から安土に至る全体の地形、水系の詳細な3Dモデル（標高モデル）を作成します。
- ・地形データは、近江八幡市をはじめとする地域の協力を得ながら、安土山及び周辺の最新の測量調査成果等を反映し作成します。

② ゾーンのテーマを象徴する対象の設定とデジタル復元

- ・ゾーンごとの特性に応じ、その価値や魅力を表す「テーマ」を設定します。
- ・それぞれの「テーマ」に基づく見える化の対象として、伝えるべき情報を象徴する建造物（外観、内部構造等）や眺望等について、高精細3DCGモデルによるデジタル復元を行います。
- ・作成したデータは、地域でも活用可能な形で展開を図り、地域と一体となり安土城及び城下町の見える化を推進していくことを検討します。

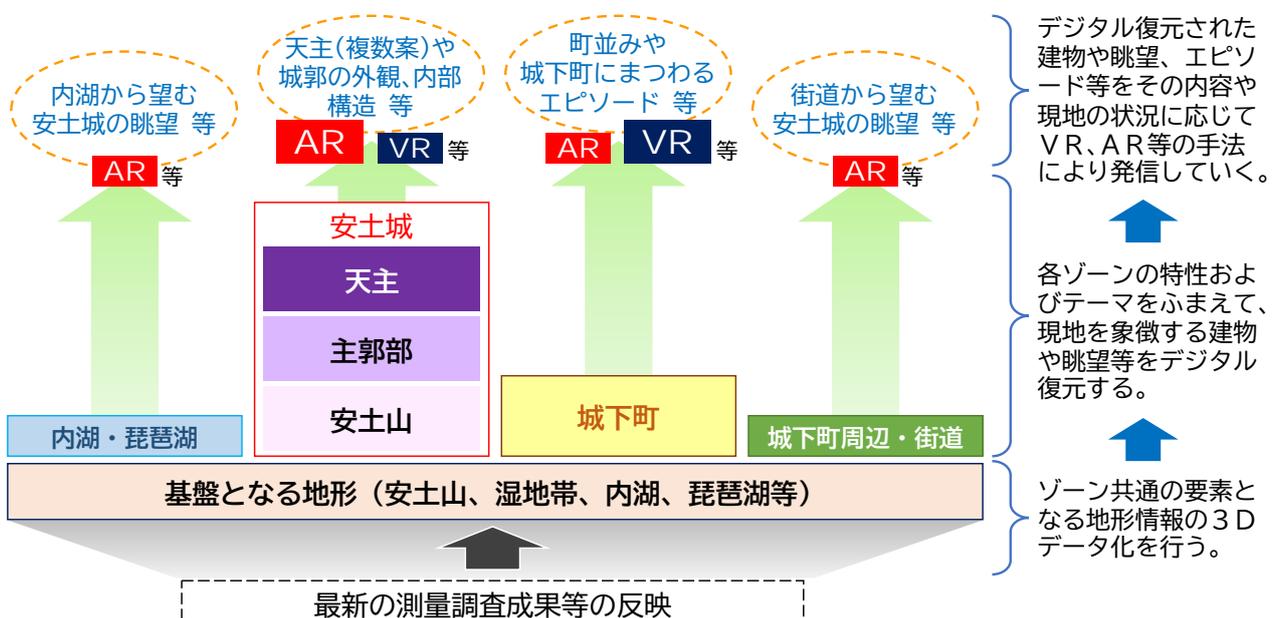
※各ゾーンに設定する「テーマ」及び見える化の対象について、ゾーンごとの見える化基本方針（2-2. 参照）に整理します。

③ 伝えるべき情報やコンテンツに応じた見える化の手法の展開

- ・ゾーンごとのテーマに沿ってデジタル復元された建造物や眺望、及びそれらを活かしたエピソードの再現等を、その内容や現地の状況に応じて、利用者等に最も伝わりやすいVR、AR等の手法を用いて、様々に発信していきます。

※各ゾーンにおける見える化の手法について、ゾーンごとの見える化基本方針（2-2. 参照）に整理します。

ゾーンに応じた見える化の基本的考え方



2-2. ゾーンごとの見える化基本方針

(1) 天主ゾーン

テーマ:「荘厳華麗・天下無双の大天主」

- ① 当時の技術・文化の粋を結集して造られた荘厳華麗な天主のすばらしさを見せる。
 - ・残された記録、解明された事実に基づき、天主建築に注ぎ込まれた当時の最先端技術の粋を、デジタル復元された天主をもとにわかりやすく解説します。
- ② 復元研究史とその到達点を知る。
 - ・天主の復元研究史を紐解き、複数の天主復元案を最新の知見から解説し、現時点での到達点を提示し、その意味を問います。
- ③ 安土城天主の荘厳華麗な姿を実感体感し、安土城に託した信長の創造性を感じる。
 - ・わが国史上初めてとなる高層住宅建築である天主の姿を、当時の人々と同じ目線、同じ規模感を実感できる感動体験を提供します。
 - ・天主の実感体験等を通じて、天下統一へと邁進する信長の視点から、その熱き思い、信長が語ろうとした思想を解き、安土城天主の歴史的意義・価値を伝えます。
- ④ 発掘調査の成果を学ぶ
 - ・昭和15・16年(1940・1941)と平成での天主台の発掘調査結果から得られた、天主にまつわる事実や知見に関する情報を発信します。

<見える化を行う対象>

① 天主の技術と文化

- ・『信長公記』にみられる天主内部装飾の記述をもとに、当時の技術の到達点と文化の粋に焦点を当て、関連資料を示しながら、それらの個々のパーツを検討しデジタルで復元し見える化を行っています。
- ・復元されたパーツが天主のどの部分を構成するかを示しながら、その部分に合わせてデジタル空間上に実物大で配置を行い、迫力ある天主の全体像を再現します。

② 複数ある天主案の並列的復元

- ・最新の知見に基づく、複数の天主復元案について、それらの外部形状・内部構造及び意匠の高精細3DCGモデルによるデジタル復元を行い比較します。
- ・根拠資料に基づく各案の特徴の提示とともに、復元データは、それぞれの共通箇所や相違箇所が比較できるよう共通のフォーマットによる作成を行います。

③ 天主の内部を実体験できるデジタル空間の創造

- ・当時の人々と同じ目線、同じ規模感で実体験できる天主内部のデジタル空間を創造します。
- ・天主を舞台として、天下を支配する天下布武の象徴であり、政治・文化・経済の中心たるべく天主に込められた信長の思想を、わかりやすく誰もが楽しめるエピソードとして紹介するコンテンツ(ストーリー映像等)を提供します。

④ 発掘調査成果の再現

- ・遺構写真・遺構図、出土遺物等をもとに、現地での発掘調査状況、成果をより詳しく知るための情報を紹介するコンテンツ(文章・画像による紹介、発掘調査現場のデジタル化等)を提供します。
- ・今後の発掘調査の進展に合わせて、調査成果の更新、コンテンツ化を推進し、誰もが最新の研究成果に気軽にアクセスできる環境を整えます。

<見える化の手法>

■天主跡（公開エリア）

- ・AR等による天主（複数復元案）の、基壇部分に合わせた実物大での高精細3DCGモデルによる可視化（スマートフォン、MRグラス等を用いて鑑賞）。
- ・VR等による発掘調査成果（遺構写真・遺構図、出土遺物等）についての情報提供、AR等による現地（天主台）と発掘調査当時の状況との重ね合わせ。

見える化のイメージ（参考事例）

国宝松江城AR

松江城（現存）に内部構造の3DCGモデルを合成して表示



資料：島根県松江市

VR安土城

安土城及び城下町（一部）の3DCGモデルによるVR空間での復元
※内藤昌案に基づく



資料：滋賀県近江八幡市

(2) 主郭部ゾーン

テーマ:「天下布武の拠点・安土城本丸」

① 宣教師や家臣達も見た信長の居城を考える。

- ・残された記録、解明された事実に基づき本丸の構造を分析。主郭部が信長の空間であり、来訪者と信長との面会が行われた場所であることを紹介します。主郭部の様子を、信長に仕える家臣の視点から再現し、その複雑な重厚で複雑な主郭部の建物群等を伝えます。

② 天下布武の拠点、正親町天皇・誠仁親王を迎えようとした安土城、その姿を描く。

- ・『信長公記』等より、安土行幸の意味と、行幸の舞台として設定された安土城についてわかりやすく解説します。

③ 信長後の安土の足跡を知る。

- ・織田家墓所と江戸時代の安土山、織田家についての紹介を通じて、信長後の安土城の成り行きを伝えます。

<見える化を行う対象>

① 主郭部の全体構造の復元

- ・遺構写真・遺構図、出土遺物等をもとに、主郭部建物の外部形状・意匠の高精細3DCGモデルによるデジタル復元を行います。特に伝本丸跡はその内部構造を含め復元を行います。
- ・復元された建物は、その基壇部分に合わせてデジタル空間上に実物大で配置を行います。基壇や周囲の高石垣等の現存遺構とデジタルデータを組み合わせることで、重厚かつ画期的な主郭部構造の全体像を復元します。
- ・今後の発掘調査の進展に合わせて、調査成果の更新、コンテンツ化を推進し、誰もが最新の研究成果に気軽にアクセスできる環境を整えます。

② 安土行幸と行幸の間の再現

- ・デジタル復元された主郭部建物を活用し、『信長公記』に記された行幸御殿見学ルートをデジタル空間上に再現します。
- ・安土行幸の意義や当時の文化等について学ぶことができ、誰もが楽しめるエピソードとして紹介するコンテンツ（バーチャル体験空間、ストーリー映像等）を提供します。

③ 織田家墓所とその後の安土

- ・信長以後の織田家の歴史と、近世以降の安土山と摠見寺の歴史について紹介するコンテンツ（ストーリー映像等）を提供します。

<見える化の手法>

■主郭部（公開エリア）

- ・AR等による主郭部建物（未公開エリアを含む）の、基壇部分に合わせた実物大での高精細3DCGモデルによる可視化（スマートフォン、MRグラス等を用いて鑑賞）。
- ・VR、AR等による安土行幸の見学ルートの可視化、家臣の視点による安土行幸のエピソード再現及び解説。
- ・VR等による発掘調査成果（遺構写真・遺構図、出土遺物等）についての情報提供、AR等による現地と発掘調査当時の状況との重ね合わせ。

(3) 安土山ゾーン

テーマ:「近世城郭の先駆け・安土城」

①近世城郭の先駆けとしての安土城の全体像を明らかにする。

- ・発掘調査成果等をもとに、安土山に展開する城郭の全体像をデジタル復元し、そこから浮かび上がる往時の安土城の特徴ある姿や構造について、近世城郭の先駆けとしての価値や魅力を伝えます。

②安土城の顔となる南面大手口の構造と大手道の圧倒的な景観を体感する。

- ・外堀から内堀、内堀から大手口の前庭は、安土城の表玄関ともいえる場所です。行幸を前提として造られた玄関構造と、大手口から城の中核へといざなう大手道。その特別性をよみがえらせるとともに、当時の人々を圧倒した大手道の景観を、驚きと感動を持って味わう体験を提供します。

③信長が建立した摠見寺の姿を知る。

- ・摠見寺の成り立ちを紹介し、また盂蘭盆会をはじめとした様々なエピソードの舞台として、信長の宗教政策と神格化をめぐる議論についてわかりやすく解説します。
- ・江戸時代の摠見寺の姿と、信長の霊廟として山を守り続ける摠見寺の現在をつなげながら、摠見寺と安土山との関係について紹介します。

<見える化を行う対象>

① 安土城の全体像を俯瞰するデータ作成

- ・天主ゾーン及び主郭部ゾーンの基盤となるとともに、その他の城郭建物等を含めた安土城全体の高精細3DCGモデルを作成します。作成したモデルは、周辺のゾーンから安土城を望む眺望として活用します。
- ・同モデルをもとに、安土城全体の時間・季節の変化やエピソード（盂蘭盆会・安土城炎上等）を再現するコンテンツ（ストーリー映像等）を作成します。

② 外堀から大手道周辺の景観の復元

- ・遺構写真・遺構図、出土遺物等をもとに、外堀から主郭部に至る安土山南麓部の登城道及び沿道の屋敷群（伝羽柴秀吉邸跡、伝前田利家邸跡、伝武井夕庵邸跡等）の外部形状・意匠の高精細3DCGモデルによるデジタル復元を行います。可能なものは、その内部構造を含め復元を行います。
- ・復元された建物は、基壇部分に合わせてデジタル空間上で実物大で配置を行います。環境整備された現地の石塁や虎口等とデジタルデータを組み合わせることで、安土城の顔としての大手口から望む安土城の眺望や大手道沿いの眺望などの迫力ある景観を復元します。
- ・今は環境整備後の石塁や石段に埋もれて見えない、現地での発掘調査状況や成果をより詳しく知るための情報を紹介するコンテンツ（文章・画像による紹介、発掘調査現場のデジタル化等）を提供します。

③ 往時の摠見寺の景観の復元

- ・現存する建造物、資料、発掘調査成果等とともに、本堂をはじめとした摠見寺旧境内建造物の外部形状・意匠について高精細3DCGモデルによるデジタル復元を行います。
- ・摠見寺の成り立ちやその意義等について知るための、摠見寺にまつわるエピソード（盂蘭盆会、家康の供応）を紹介するコンテンツ（バーチャル体験空間、ストーリー映像等）を提供します。
- ・現地をより詳しく知るための情報として、現存する文化財等（鉄鑿、陣羽織、三重塔、二王門等）について紹介するコンテンツ（文章・画像等）を提供します。また可能なものについて、間近に観察することができる高精細3DCGモデルを作成します。

<見える化の手法>

■安土城内（外堀～大手道周辺）

- ・AR等による外堀から大手道、黒金門までの周辺及び屋敷群の、基壇部分に合わせた実物大での高精細3DCGモデルによる可視化（スマートフォン、MRグラス等を用いて鑑賞）。
- ・AR等による大手門口等の視点場からみた天主及び主郭部を望む眺望の可視化。
- ・晴天・昼間の景観に加えて、季節／時間の変化やエピソード（盂蘭盆会、安土城炎上等）を再現及び解説。
- ・VR等による発掘調査成果（遺構写真・遺構図、出土遺物等）についての情報提供、AR等による現地と発掘調査当時の状況との重ね合わせ。

■安土城内（摠見寺跡）

- ・AR等による摠見寺旧境内の、基壇部分に合わせた実物大での高精細3DCGモデルによる可視化。
- ・VR等による発掘調査成果（遺構写真・遺構図、出土遺物等）についての情報提供、AR等による現地と発掘調査当時の状況との重ね合わせ、及び現存する文化財等（三重塔、二王門等）についての紹介。

見える化のイメージ（参考事例）

鴻臚館・福岡城バーチャル時空散歩

高精細3DCGによる鴻臚館・福岡城の復元とVR、AR等による体験



資料：福岡県福岡市

熊本城VR

高精細3DCGにより復元された熊本城（江戸時代の姿、2016年熊本地震以前の姿）



資料：熊本県熊本市

(4) 城下町ゾーン

テーマ:「信長のあたらしいまちづくり」

① 信長が求めたあたらしいまちづくりを考える。

- ・『安土山下町中掟書』を紐解き、信長の都市・経済政策と城下町の特性、のちの近世城下町に続く嚆矢としての安土城下町の意義やその価値についてわかりやすく解説します。

② 城下町の成り立ちと構造を知る。

- ・現況及び残された記録、発掘調査成果等をもとに、安土城下町の全体像をデジタル復元し、その成り立ちや構造の特徴等からみる城下町の価値や魅力を伝えます。

③ 町民の暮らしぶりからみる信長の威光を体感する。

- ・『信長公記』の記録や町内に現存する文化財等を活かして、現在の城下町各所に残された信長のまちづくりの足跡をエピソードとともに再現し、町民の暮らしぶりからみる信長の威光を体感する機会を提供します。

<見える化を行う対象>

① 城下町の全体像を俯瞰するデータ作成

- ・安土城下町全体の高精細3DCGモデルを作成します。作成したモデルは、周辺のゾーンから城下町を望む眺望として活用します。
- ・記録や発掘調査成果等より判明した事実をベースに、現存する町割、地名や地形に基づく推定を含めた再現を基本とします。
- ・その存在が城下町の構造に影響を与える惣構どて跡推定地については、できる限りの根拠資料を収集してその再現方法を検討します。
- ・江戸時代の絵図と現況との重なりを示すCG映像を作成します。

② 城下町と城の関係性からみる信長のまちづくり

- ・下街道沿道の町並み(楽市楽座)、キリシタンの神学校(安土セミナリヨ)、常楽寺湊及び常楽寺城(木村館)等の、信長の都市・経済政策に関わる城下町内の視点場となる景観の高精細3DCGモデルによるデジタル復元を行います。
- ・これら景観とともに『安土山下町中掟書』の内容を解説し、信長のまちづくりについて誰もが楽しみながら学べる体験を提供します。
- ・城下町の視点場(セミナリヨ跡等)から安土城がどのように見えるかをデジタル復元し、ヴィスタの意味について解説するコンテンツ(文章・画像等)を提供します。

③ 城下町にまつわるエピソードの再現

- ・安土城下町にまつわる伝承が残る場所について、そのエピソードを再現し、紹介するコンテンツ(バーチャル体験空間、ストーリー映像等)を提供します。
常楽寺相撲と東家・西家、左義長等行事、楽市楽座の賑わい、安土セミナリヨと宣教師の活動、浄厳院の安土宗論、松原の安土馬揃え、沙沙貴神社での能鑑賞等

<見える化の手法>

■城下町内部の視点場（街道沿道、公園、境内地等）

- ・AR等による視点場からみた安土城下町の、現存する街道沿いの町割に合わせた実物大での可視化（スマートフォン、MRグラス等を用いて鑑賞）。
- ・城下町にまつわる伝承地でのVR、AR等によるエピソード再現及び解説（常楽寺相撲、左義長等行事、樂市樂座の賑わい、安土セミナリヨ、浄厳院の安土宗論、松原の安土馬揃え、沙沙貴神社での能鑑賞等）。

■城下町から安土城を望む視点場（JR安土駅、セミナリヨ史跡公園等）

- ・AR等による視点場から望む安土城（主に天主及び主郭部）の眺望の可視化。晴天・昼間の景観に加えて、季節／時間の変化やエピソード（盂蘭盆会、安土城炎上等）を再現及び解説。

■城下の風景を俯瞰する視点場（安土城惣見寺跡等）

- ・AR等による安土城跡の視点場からみた城下町（湿地帯や内湖・琵琶湖の周辺地形を含む）の眺望の可視化。

見える化のイメージ（参考事例）

矢掛町歴史文化体験アプリ

VR、AR等による江戸時代の宿場町の町並みとエピソードの再現



資料：岡山県矢掛町

小江戸甲府VR

江戸時代の甲府城下の再現。VRと音声ガイドによる解説



資料：山梨県甲府市

(5) 城下町周辺・街道ゾーン

テーマ:「信長が選んだ安土という土地」

①近江国安土の重要性を知る。

- ・安土城を囲む周辺地形の景観のデジタル復元を通じて、かつて一帯が山地と湿地帯、内湖であった安土が、時の為政者による歴史的な場として形成されていった、その過程と安土という場所の歴史的・地理的・経済的な価値をわかりやすく解説します。

②ランドマークとしての安土城を体感する。

- ・安土を目指す旅人（異国人、商人、巡礼者等）の視点から、ランドマークとして安土城の迫力と荘厳さを、驚きと感動を持って味わう体験を提供します。

<見える化を行う対象>

① 都市安土の全体景観の復元

- ・基盤となる地形データ及び安土城、城下町から成る全体景観の3Dモデルを用いて、豊浦荘や佐々木荘など城下町成立以前から荘園が広く展開する地域であったこと、街道及び水運との関係から安土が交通の要衝であること等を紹介し、信長が選んだ安土という土地の成り立ちやその価値について解説するコンテンツ（文章・画像等）を提供します。

② 安土城を望む眺望（陸地側）の復元

- ・安土城一帯の景観として、かつて湿地帯であった安土山南部の街道を中心とした視点場からの安土城の眺望及び安土城から城下の風景を俯瞰する眺望（陸地側）のデジタル復元を行います。

<見える化の手法>

■遠景から安土城を望む視点場（街道沿道（下街道、景清道）等）

- ・AR等による視点場から望む安土城（主に天主及び主郭部）の眺望の可視化。
晴天・昼間の景観に加えて、季節／時間の変化やエピソード（盂蘭盆会、安土城炎上等）を再現及び解説。

■城下の風景を俯瞰する視点場（安土城惣見寺跡等）

- ・AR等による安土城跡の視点場からみた城下町（湿地帯や内湖・琵琶湖の周辺地形を含む）の眺望の可視化。

(6) 内湖・琵琶湖ゾーン

テーマ:「琵琶湖に浮かぶ城・安土城」

①湖城としての安土城の意義を考える。

- ・琵琶湖に面して築かれた信長の城郭（安土城及び坂本城、長浜城、大溝城）の関係から、湖上交通における安土の位置づけと信長の琵琶湖政策についてわかりやすく解説します。

②かつて内湖に浮かぶ水の城であった安土城の美しさを堪能する。

- ・現在では見ることができない内湖・琵琶湖の当時の景観をデジタル復元し、湖城・安土城の美しさを堪能する体験を提供します。

<見える化を行う対象>

① 安土城を望む眺望（琵琶湖側）の復元

- ・安土城一帯の景観として、かつて湖上であった西の湖及び旧内湖を中心とした視点場からの安土城の眺望及び安土城から城下の風景を俯瞰する眺望（琵琶湖側）のデジタル復元を行います。

② 琵琶湖と安土城との関係性から見る信長の琵琶湖政策

- ・琵琶湖から安土に至る、遠望から俯瞰した安土城の全体像を示し、琵琶湖岸の要地に配置された城との位置関係から、信長の琵琶湖政策について解説するコンテンツ（バーチャル体験空間、ストーリー映像等）を提供します。
- ・坂本城から安土城への船を使った移動や、内湖・琵琶湖から見た安土城の景観等といった、内湖・琵琶湖を舞台としたエピソードを再現し、紹介するコンテンツ（バーチャル体験空間、ストーリー映像等）を提供します。

<見える化の手法>

■遠景から安土城を望む視点場（西の湖、旧内湖等）

- ・AR等による視点場から望む安土城（主に天主及び主郭部）の眺望の可視化。

晴天・昼間の景観に加えて、季節／時間の変化やエピソード（盂蘭盆会、安土城炎上等）を再現及び解説。

- ・VR、AR等による琵琶湖と安土城との関わりを示すエピソードを再現及び解説（坂本城から安土城への船による移動等）。

■琵琶湖の風景を俯瞰する視点場（安土城天主跡、安土城摠見寺跡等）

- ・AR等による安土城跡の視点場からみた琵琶湖（湿地帯や内湖・琵琶湖の周辺地形を含む）の眺望の可視化。

見える化のイメージ（参考事例）

釜石市橋野鉄鉱山ガイドアプリ

ARで高炉の構造を再現し、往時の姿を体験



資料：岩手県釜石市

仁徳天皇陵VRツアー

VRによる遠望、上空からの眺望の可視化



資料：大阪府堺市

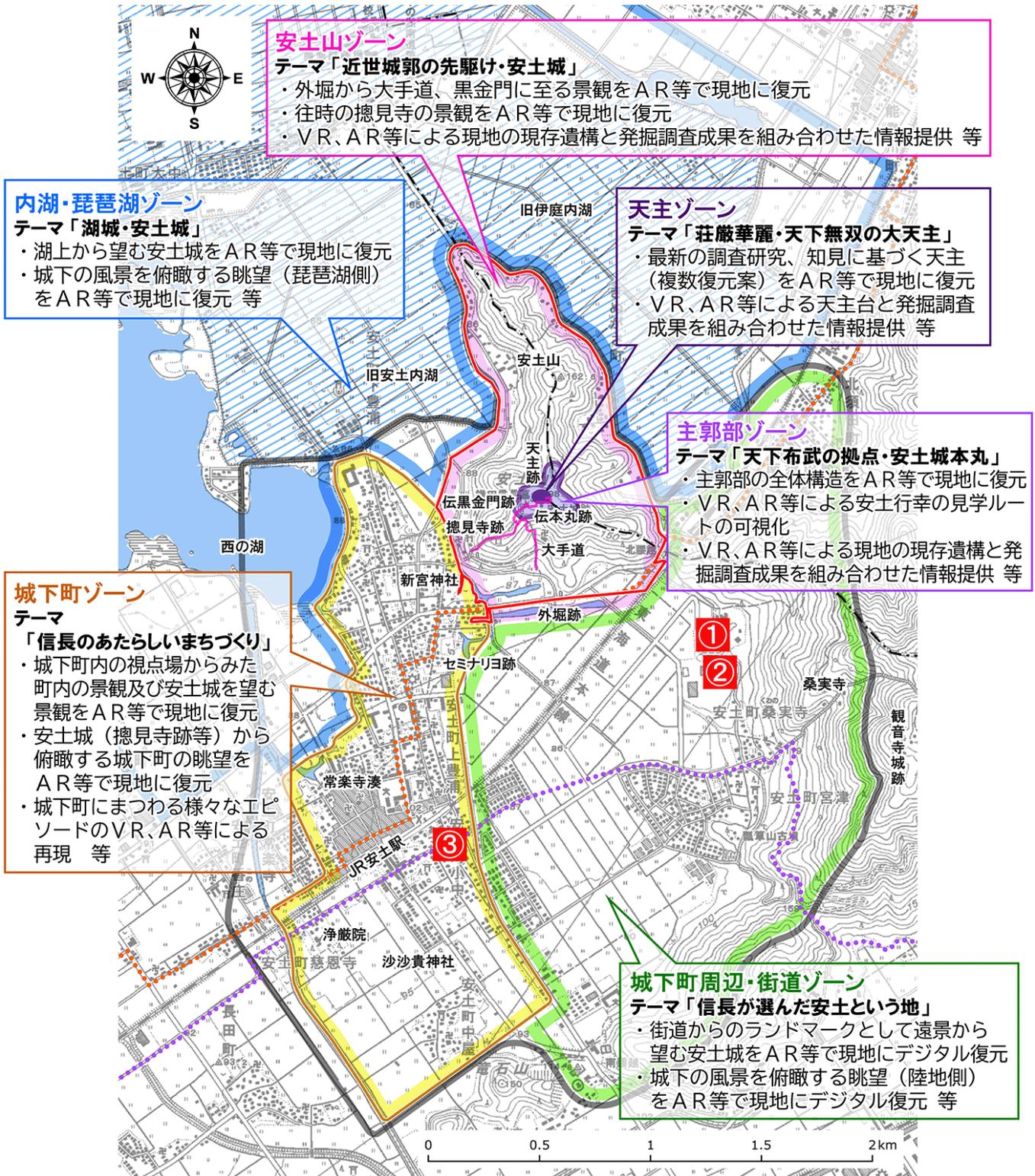
伊那谷・駒ヶ根 美景 X ドローン『空巡り』

ドローンパイロットが同行して上空からのライブ映像をMRグラス等で鑑賞



資料：一般社団法人駒ヶ根観光協会、国土交通省

ゾーン別見える化方針図



安土山ゾーン
 テーマ「近世城郭の先駆け・安土城」
 ・外堀から大手道、黒金門に至る景観をAR等で現地に復元
 ・往時の惣見寺の景観をAR等で現地に復元
 ・VR、AR等による現地の現存遺構と発掘調査成果を組み合わせた情報提供 等

内湖・琵琶湖ゾーン
 テーマ「湖城・安土城」
 ・湖上から望む安土城をAR等で現地に復元
 ・城下の風景を俯瞰する眺望（琵琶湖側）をAR等で現地に復元 等

天主ゾーン
 テーマ「荘厳華麗・天下無双の大天主」
 ・最新の調査研究、知見に基づく天主（複数復元案）をAR等で現地に復元
 ・VR、AR等による天主台と発掘調査成果を組み合わせた情報提供 等

主郭部ゾーン
 テーマ「天下布武の拠点・安土城本丸」
 ・主郭部の全体構造をAR等で現地に復元
 ・VR、AR等による安土行幸の見学ルートの可視化
 ・VR、AR等による現地の現存遺構と発掘調査成果を組み合わせた情報提供 等

城下町ゾーン
 テーマ
 「信長のあたらしいまちづくり」
 ・城下町内の視点場からみた町内の景観及び安土城を望む景観をAR等で現地に復元
 ・安土城（惣見寺跡等）から俯瞰する城下町の眺望をAR等で現地に復元
 ・城下町にまつわる様々なエピソードのVR、AR等による再現 等

城下町周辺・街道ゾーン
 テーマ「信長が選んだ安土という地」
 ・街道からのランドマークとして遠景から望む安土城をAR等で現地にデジタル復元
 ・城下の風景を俯瞰する眺望（陸地側）をAR等で現地にデジタル復元 等

	基本計画 対象範囲		水域		下街道（朝鮮人街道）
	主な拠点施設		旧内湖（干拓地）		景清道
①	安土城考古博物館		特別史跡指定地		主な登城道 （大手道、百々橋口道）
②	安土城天主信長の館		城下町の範囲（推定）		
③	安土城郭資料館				

2-3. ゾーン連携・広域活用方針

(1) 見える化の魅力を高めるゾーン間の連携及び広域活用のあり方

各ゾーンにおいては、それぞれ場所の特性を活かした見える化の体験を提供することとなりますが、その楽しみは一つのゾーンだけで完結するものではありません。

各地にデジタル復元された建造物や眺望等は、例えば内湖や街道から望む天主（複数復元案）の姿や、城下に広がる城下町とそこに営まれる信長と町民のエピソードなど、ゾーン間相互のつながりや連携を交えて来訪者に提供していくことで、安土の多様な価値、魅力を、地域全体で楽しみ、学ぶ場へとつなげていくことが求められます。

また、安土城考古博物館や安土城天主信長の館などは、安土城及び城下町に関わる様々な展示を通じてその価値、魅力を発信する重要な施設となりますが、安土城から距離が遠く、気軽に足を運びにくい状況にあります。地域には、その他にも多く拠点施設が点在していることから、これら施設間の連携を図り、現地と拠点施設を巡ることで、来訪者の見える化に対する興味を喚起し、様々な楽しみを享受できる仕掛けを講じていく必要があります。

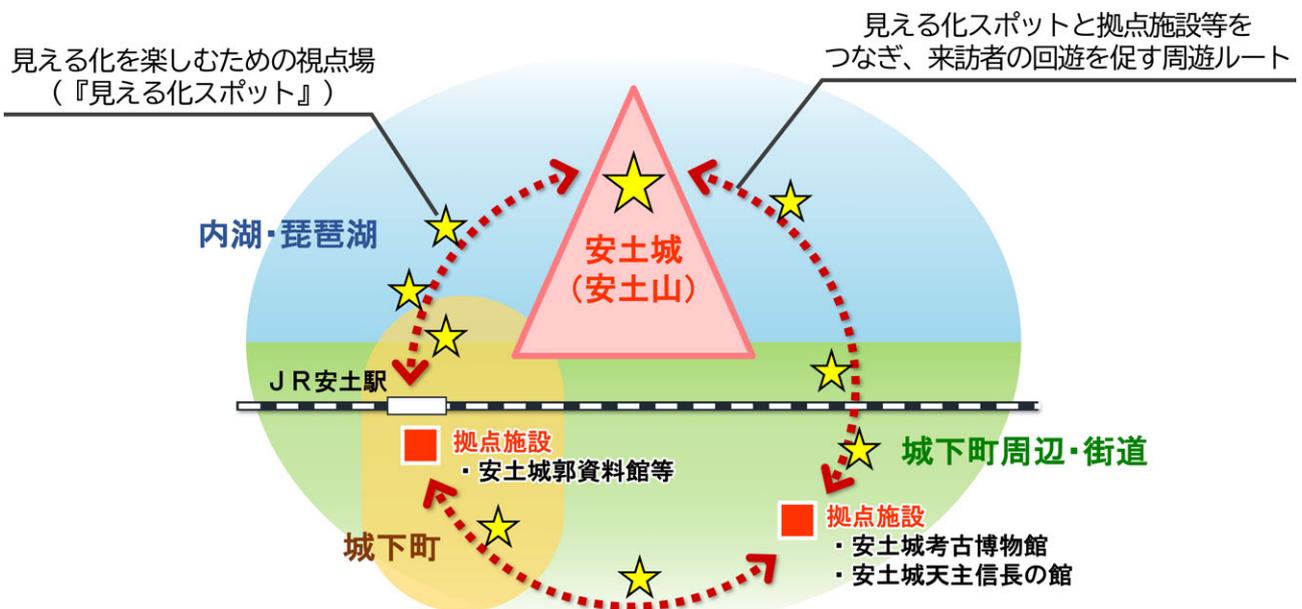
そのため、「地域の魅力を体感する（仮称）安土まるごと見える化周遊ルートの設定」、「周遊ルートにおける『見える化スポット』の適切な設置」、「拠点施設の活用と連携の実現」を通じて、安土全体の見える化の魅力を高めるゾーン間の連携及び広域活用を図ります。

(2) 地域の魅力を体感する（仮称）安土まるごと見える化周遊ルートの設定

これまで分断されていた安土城及び城下町の魅力を、現地並びに拠点施設にて余すことなく楽しむため、VR、AR等による見える化を楽しむための視点場（『見える化スポット』）と安土城考古博物館、安土城天主信長の館等の各施設、さらにアクセスのためのJR安土駅を結ぶ、来訪者の回遊を促す「（仮称）安土まるごと見える化周遊ルート」を設定します。

周遊ルートを介して、各ゾーンでデジタル復元された建造物や現存する遺構等と、拠点施設が相互に連携して機能することで、利用者の安土城や城下町に対する興味や理解の熟度に対応する満足度の高い体験へとつなげます。さらに、周遊ルートの充実を通じて地域の魅力を高めていくことで、その効果を市外・県全体へと波及させ、さらなる広域周遊へと利用者を促します。

（仮称）安土まるごと見える化周遊ルート 概念図



周遊ルートの設定にあたっては、各ゾーンの見える化の対象及び手法を選択した上で、それらを体験する『見える化スポット』をルート上に配置するとともに、より詳しい解説や情報提供を行う拠点施設と関連づけることが大切です。

周遊ルートについては、ゾーン内の旧街道（下街道、景清道）を活かしながら、以下に示す4つのルートを想定します。利用者の興味や理解の熟度に応じてルートを選択又は組み合わせることで、満足度の高い体験へとつなげます。

(仮称) 安土まるごと見える化周遊ルート (想定ルート)

ルート	概要	立ち寄り先
①安土城参上ルート	J R安土駅を起点として、街道（下街道）を通じて城下町から城内へと至る。	J R安土駅 →安土城郭資料館・安土駅観光案内所 →[城下町ゾーン]安土城下町跡（上豊浦・下豊浦） →[安土山～天主ゾーン]特別史跡安土城跡
②安土城下町探訪ルート	安土城考古博物館を起点として、街道（景清道）より城下町各地を巡り、J R安土駅へと至る。	安土城考古博物館・安土城天主信長の館 →[城下町周辺・街道ゾーン]旧景清道 →[城下町ゾーン]安土城下町跡（常楽寺・慈恩寺） →J R安土駅・安土城郭資料館・安土駅観光案内所
③安土城の成立を探るルート	安土城を起点として、街道（下街道）を通じて安土城考古博物館へと至る。	[安土山～天主ゾーン]特別史跡安土城跡 →[城下町周辺・街道ゾーン]旧下街道 →安土城考古博物館・安土城天主信長の館
④安土城と水運ルート	安土城を起点として、城下町から西の湖及び旧内湖を巡り、再び安土城へと至る。	[安土山～天主ゾーン]特別史跡安土城跡 →[城下町ゾーン]安土城下町跡（下豊浦） →[内湖・琵琶湖ゾーン]西の湖、弁天島 →特別史跡安土城跡

(3) 『見える化スポット』の設置

来訪者が、物語化した安土の価値や魅力を楽しみながら周遊できるよう、そのルート上にデジタル復元した安土城・城下町及びそれらにまつわるエピソード等の見える化体験を可能とする視点場（『見える化スポット』）をエピソードやストーリー展開に合わせて設置します。

見える化スポットのいくつかについては、既に近江八幡市のVR安土城として整備済のスポットとして存在していますが、これら既存の見える化スポットだけでは、(2)で設定する周遊ルートを構築するには不十分で、特にJ R安土駅と安土城跡を結ぶ城下町部分や、安土城考古博物館・安土城天主信長の館とJ R安土駅を結ぶ旧景清道沿いには、新たなスポットの設置が必要です。周遊ルート上の既存の見える化スポットと、考えられる新たな設置場所の案については次のとおりです。今後、エピソードやストーリーに合わせて、現地の状況を確認したうえで検討する必要があります。

「見える化スポット」の設置箇所（案）

ゾーン	見える化スポット（案）	周遊ルート(想定)との対応				備考
		① 安土 戒 参 上 ル ー ト	② 安土 戒 下 町 探 訪 ル ー ト	③ 安土 戒 の 或 立 を 探 る ル ー ト	④ 安土 戒 と 水 運 ル ー ト	
天主ゾーン	天主跡	○		○		天主の復元(複数案)
	天主跡から城下の眺望	○		○	○	
主郭部ゾーン	伝本丸跡	○		○		安土行幸の見学ルートの再現
	天主台南面	○		○		
	伝二ノ丸跡	○		○		織田家墓所とその後の安土
	伝黒金門跡	○		○		
安土山ゾーン	大手門跡	○		○		
	大手道	○		○		
	屋敷群跡（伝羽柴秀吉邸跡）	○		○		
	摠見寺跡			○		(安土城、摠見寺にまつわるエピソード) 孟蘭盆会、家康の饗応
	外堀跡			○	○	
	摠見寺跡から城下の眺望			○	○	
城下町ゾーン	セミナリヨ史跡公園	○	○		○	(城下町にまつわるエピソード) 安土セミナリヨと宣教師の活動
	常楽寺湊		○		○	(城下町にまつわるエピソード) 水運と常楽寺城(木村館)
	浄厳院		○			(城下町にまつわるエピソード) 浄厳院の安土宗論
	東南寺		○			
	沙沙貴神社		○			(城下町にまつわるエピソード) 沙沙貴神社の能鑑賞
	新宮神社		○			(城下町にまつわるエピソード) 常楽寺相撲
	総構どて跡	○	○		○	
	百々橋	○	○			安土行幸の見学ルートの再現
	松原の通り（下街道）	○	○		○	(城下町にまつわるエピソード) 松原の安土馬揃え、左義長
	景清道（道標）		○			
	J R安土駅	○	○			
城下町周辺・ 街道ゾーン	北腰越峠			○		
	北腰越南面			○		
	景清道（桑實寺、観音寺城跡）		○			
	景清道（安土山南面）			○		
	安土城天主信長の館		○	○		
内湖・琵琶湖 ゾーン	西の湖（よしきりの池）				○	現存する内湖の景観
	弁天島				○	旧内湖の景観

<見える化スポット周辺の環境整備>

見える化スポットの設置に際しては、データ通信等の基盤部分の整備、利用者への案内や安全確保といった利用者が安心、快適に見える化を楽しむための環境づくりとともに、文化財の保存や地域の日常生活への配慮等の対応が求められます。

そのため、今後の見える化スポットの設置箇所の検討及び具体化に向けて、以下に示す取り組み等を通じて、必要に応じた見える化スポット周辺の環境整備を推進します。

- ・スポット設置のための用地確保（公有地、社寺境内地等を候補とする）
- ・現地体験のための通信インフラ整備（貸出用機器の手配、ローカル5G整備、高精度3D位置情報の整備等）
- ・利用者への情報提供及び安全対策（看板設置、滞留スペースの確保、見学順路との隔離等）
- ・特別史跡指定地の現状変更への対応、土地所有者との協議・設置許可等
- ・地域住民への周知、利用者のマナー向上の取り組み等

（４）各拠点と拠点施設の活用、連携

拠点施設は、各ゾーンの見える化の体験を補完する場所であり、屋外では提供が困難な、より深く安土の価値や魅力を堪能できる体験を提供する場所でもあります。

そのため、各施設は相互に連携して、現在の設備の強化、充実等を図り、より高度な見える化の体験の場を創出するとともに、周遊ルート及び見える化スポットのある現地へ利用者をいざなうガイダンス機能の強化を推進します。

■安土城考古博物館

（屋内での見える化体験の強化、充実）

- ・「安土城考古博物館展示基本計画」に基づく第一展示室のリニューアル整備
- ・各ゾーンのコンテンツを集約し公開するための展示設備（プロジェクションマッピングシアター等）を有するガイダンス機能の強化
- ・VRシアター：超高精細4K映像の大型スクリーンによるVR体験
- ・来訪者を迎えるおもてなし空間での大型LEDビジョンの設置等

■安土城天主信長の館

（現行の展示内容の強化、充実）

- ・VR安土城との連携強化
- ・天主の原寸大復元建物を活用した情報発信の充実等

■安土城郭資料館

（展示及びガイダンス機能の強化）

- ・天主（複数復元案）についての紹介コーナーの設置
- ・安土城及び城下町内の見える化スポット及びコンテンツに関する紹介
- ・安土城及び城下町にまつわるエピソードの紹介（ストーリー映像等）
- ・現存する文化財・伝承地等と見える化スポットを巡る周遊ネットワーク案内等

■その他の施設（安土駅観光案内所、安土城跡ガイダンス施設、安土楽市楽座館等）

（ガイダンス機能の強化）

- ・安土城及び城下町内の見える化スポット及びコンテンツに関する紹介
- ・現存する文化財・伝承地等と見える化スポットを巡る周遊ネットワーク案内等

拠点施設における見える化のイメージ（参考事例）

富士山プロジェクションマッピング

富士山の模型にCGを合成するプロジェクションマッピングシアター



資料：©NIPPON GALLERY TABIDO MARUNOUCHI

国立科学博物館ホログラムディスプレイ

ホログラムによる資料展示



資料：国立科学博物館

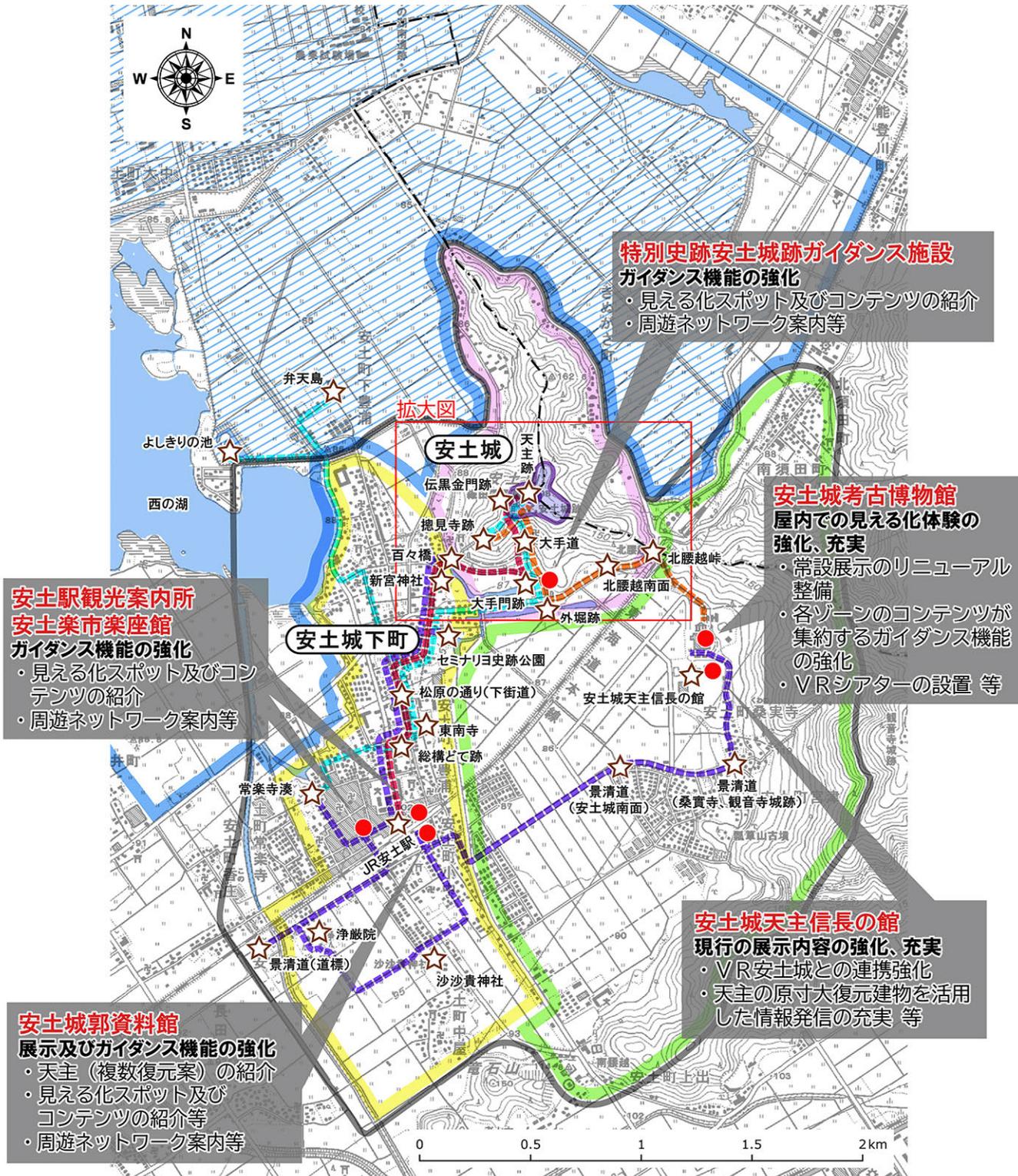
TNM & TOPPAN ミュージアムシアター

超高精細4K映像の大型スクリーンによるVR体験



資料：東京国立博物館、凸版印刷株式会社

ゾーン連携・広域活用方針（案）



**安土駅観光案内所
安土楽市楽座館**
ガイドス機能の強化
・見える化スポット及びコンテンツの紹介
・周遊ネットワーク案内等

特別史跡安土城跡ガイドス施設
ガイドス機能の強化
・見える化スポット及びコンテンツの紹介
・周遊ネットワーク案内等

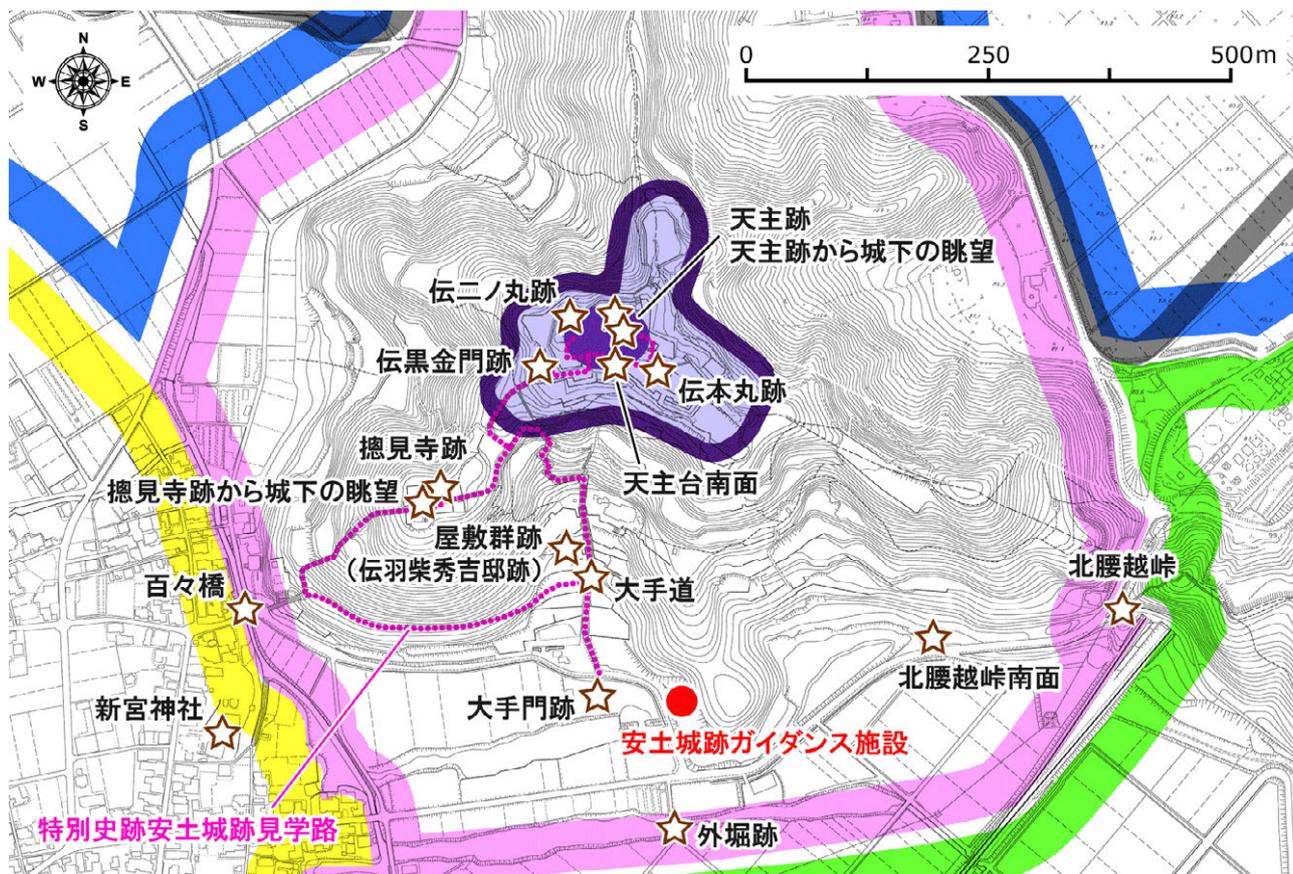
安土城考古博物館
屋内での見える化体験の強化、充実
・常設展示のリニューアル整備
・各ゾーンのコンテンツが集約するガイドス機能の強化
・VRシアターの設置等

安土城天主信長の館
現行の展示内容の強化、充実
・VR安土城との連携強化
・天主の原寸大復元建物を活用した情報発信の充実等

安土城郭資料館
展示及びガイドス機能の強化
・天主（複数復元案）の紹介
・見える化スポット及びコンテンツの紹介等
・周遊ネットワーク案内等

基本計画 対象範囲	拠点施設	見える化スポット（案）	(仮称) 安土まるごと見える化周遊ルート（想定ルート）	天主ゾーン	安土山ゾーン
			①安土城参上ルート	主郭部ゾーン	城下町ゾーン
			②安土城下町探訪ルート	城下町周辺・街道ゾーン	内湖・琵琶湖ゾーン
			③安土城の成立を探るルート	水域	旧内湖（干拓地）
			④安土城と水運ルート		

ゾーン連携・広域活用方針（案）（安土城拡大図）



見える化事業整備イメージ

